

第 5 3 号

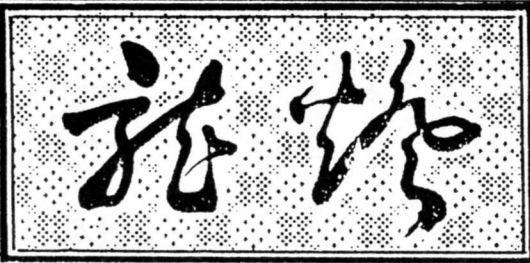
大阪市史跡 龍溪禪師墓所 雲屯山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)



お寺が栄えることは檀信徒の喜びであり

不二家の危機

ペコちゃん泣いている

ペコちゃん人形で知られる大手菓子メーカーの不二家が窮地に立たされています。消費・賞味期限切れ原料の使用や、さまざまな品質管理が相次いで発覚しました。雪印食品をはじめ、食品会社の食中毒や偽装問題が相次ぎ、食の安全を第一とする食品会社が、消費者の信頼を裏切ると、経営が成り立たないことは、自明の理であること知りながらも、その教訓を生かせませんでした。クリスマス商戦を目前とした昨年十一月に埼玉工場で賞味期限切れを認識していたながら公表を避け、その後不祥事の公表を小出しにした挙げ句、続々とその隠蔽事実が判明しました。事態の深刻化をうけて藤井林太郎社長は会見で、責任をとって辞任する意向を表明しました。「莫妄想(まくもうそう)という禅の言葉があります。中国・唐の時代の禅僧の無業(むごう)禅師の言葉です。莫妄想とは、「妄想するなかれ」ということで、「人間が考えてもわ

からないことを、あれこれ考えるな」ということです。それは裏返しに言えば、人間を越えた『ほとけの教えを信ずる』ことなのです。ほとけの教えを、時間、空間を超越した永遠の真理と信じて、その教えのまま生きるのが仏教者として幸福な生きかたなのです。今回の不二家の問題についていえば、仏教でいう「利他行」(他人のためにする活動)としての食品の製造・販売活動の原点を逸脱したところから生じた問題といえます。利益を得ることは、企業として当然のことですが、消費者に喜ばれる食品を製造・販売するそしてそれを行った結果として利益が生じるのです。不二家の創業者の藤井林右衛門は、明治四十三年に横浜で洋菓子店を開くにあたり、富士山のように日本に二つとない立派な店になるようにと『不二』家と名付けたといえます。「はじめからソロバンずくでは、製品は作らない。ただ、よ

い製品さえつくれば、ソロバンの方は自然とあつてくれるものだ」とは、創業者の言葉です。まさに、ほとけの教え「利他行」の原点ともいうべき、不二家の経営方針が、洋菓子の老舗(しにせ)として、お客に愛されてきたのではないのでしょうか。現社長の藤井林太郎氏はその創業者の孫、お祖父さまの教えをいま一度思い返し、不二家の再建に力をつくすべきです。多くのペコちゃんファーンのためにも。コンプライアンス(法令順守)食の安全基準)が叫ばれるなか、モラルまで金儲けのために踏みこじられて不二家のペコちゃんも泣いていることだと思えます。



歴代是嚴修

導師は塔頭院主を拝請

本年は当院の先代弘忠和尚の十三回忌と先々代栄忠和尚の五十回忌に正當します。四月十四日(土)に両和尚の歴代忌を予定しております。檀信徒の方々にご参詣賜るべきところ、諸般の事情で、当院檀信徒総代の方々と宗内御大徳の和尚様(導師大本山塔頭萬松院院主中島義晃大和尚)十二名を拝請して挙行いたします。両和尚様の履歴をご紹介します。

第二十三代栄忠和尚

姓は奥田、明治二十二年二月十日、愛知県中島郡千代田村、現在の稲沢市奥田町の農家の二男として出生。父は奥田栄左エ門、母リツ。明治三十二年三月、十一才の時、当院にて省己和尚の弟子となる。本通尋常高等小学校、黄檗宗普通学校を経て、明治四十一年四月に奈良法隆寺勸学院において仏教学を修めた。同所では曹洞宗の傑僧沢木興道老大師と共に励み、以後老大師遷化まで、親交を続けられた。

明治四十五年七月、省己和



尚の引退に伴い二十三代住職になられ、同年十一月五日晋山式を挙行された。黄檗宗宗務所長、宗會議員審議委員を歴任するかわら当院の経営に邁進された。

お寺が栄えることは檀信徒の喜びであり

当院への貢献については、先代和尚が龍燈第九号に詳記されているが、大正八年五月一日より四日間、開山龍溪禪師二百五十年大遠忌を黄檗四十六代大雄猊下を拝請の下に執行。昭和十四年五月四日黄

第二十四代弘忠和尚

大正六年七月三日、当院の長男として、父栄忠、母フサ(後の世界長シューズの社主藤本家の次女で、安治川地区の檀家高橋家や鈴木家の世話で縁付く)の下で生誕。七才で黄檗宗管長星野直翁猊下に就いて得度。本田小学校、旧制市岡中学校(同校では列長を勤めた)大谷大学文学部卒業の後、黄檗禅堂に掛錫修行。昭和十七年より二十年まで南洋ラバウル方面で兵役を勤め二等兵として辛酸をなめる。復員後、鶴見橋の公立中学校教員、縁あって私立清風高校の夜間部の教師として勤務。師父栄忠和尚の伊丹常休寺(姉發子が嫁ぎ、夫弘道和尚はファイルピンで戦死)住職転任の後をうけ、昭和二十三年一月当院住職に就任。二十五年十月二十三日、現今の本堂再建落慶法要を兼ね晋山式を挙行された。昭和三十九年には、朱塗り



の龍宮門をコンクリート製で復元(施工檀家池野工務店)境内墓地造成や庫裡増改築など鋭意、当院運営に心を砕かれ、復興発展に尽くされた。宗内でも布教師や教学諮問委員、座元検定委員、宗務支院長を勤め、大本山塔頭萬松院、常休寺、松源寺、久安寺などの住職を兼務された。晩年、アルツハイマー病を発症したが、戦役での苦勞を偲び、『椰子の実』を月参りで歌っていた。小柄にとつて人生の命題を戴いた大恩師である。

歴四十八代義道猊下拝請の下に一日受戒会執行。とりわけ大東亜戦争での壊滅的被害、ジェーン台風での高潮来襲による重要物品流出などの困難を乗り越えを重興された功績は偉大なるもの。



山門会に大亀地蔵尊開眼

○新規墓地使用者募集

無縁墳墓の改葬により、墓地整理工事が完了しました。新しく墓地使用希望者に提供しますので、詳細は、当院までお問い合わせください。

なにぶん手狭な境内墓地ですが、改葬跡地を有効に利用しようと、墓地の大きさを大区画・中区画（巻石）・中区画（土台石）・小区画の四区画にしました。大きさは、それぞれ区画の立て札に記載しております。

どの区画の墓地も、一般的な墓碑が建ちます。今回募集するのは、大区画（三基）・中（巻石）区画（十三基）・中（土台石）区画（十六基）・小区画（二十七基）です。

境内墓地のことですので、当院の檀家になることが条件です。宗旨は禅宗が原則ですが、他宗派でも、法事・葬儀など当院が執行するならば、お寺の護持に協力する条件で使用できます。

また、古くからのお墓の建て替え（転改葬）や墓地の拡張のご希望があれば、ご相談に応じます。

○永代供養墓希望者募集

大亀地蔵尊を戴いた永代供養墓（写真）を建てました。跡継ぎの有無にかかわらずお寺が永代にわたり供養と管理をお約束するお墓です。

将来無縁になる心配がなく、死後安心して託すことができます。生前からも予約できます。

永代供養墓については、宗旨・宗派は問いません。また使用にあたり、当院への帰依は希望者のみです。

○由緒案内板新設

山門前の由緒案内板が傷んでいたので、新設しました。最近判明した当院の草創年など、当院の寺院案内パンフの内容をもとに大幅に書き換え

納骨冥加金だけで、管理料は要りません。龍燈会館二階の慈光堂（位牌堂）で永代祀堂位牌でもお祀りし、彼岸・お盆には加担僧侶方で回向し

ます。新仏のお骨は七回忌までは基壇内で骨壺のまま安置し、期間経過後にさらしの袋に入れかえて基壇下のカロートに納め土に返します。

ました。ステンレス製でエッチング加工、摂津名所図絵の古図もいれ素晴らしい出来ばえです。

最近、街歩きブームで来院される方が多く、これで九条の名刹？も宣伝できます。



「開山龍溪禪師の喜び、誰よりも」本尊の喜びです！

奉 納 抄

○猫地藏の御堂寄進

前号でお願いしました「猫地藏の御堂の寄進」ですが、早速、三名の方より計老万円のご喜捨がありました。小額でも大勢の方々よりのご喜捨で作りますほうが、猫地藏にとっては喜ばしいので、愛猫家の方々のご喜捨を引き続きお願いいたします。

編集後記

▼本年は、先代弘忠和尚、先々代栄忠和尚の回忌が巡ってきます。
▼九島院がここにあるのは、全て歴代の和尚方が、不惜身命（ふしゃくしんみょう）努力されてきたお蔭なのです
▼不惜身命は仏教語であり、菩薩が衆生済度のため身命を惜しまず努力することをいいます。
▼かつて、若乃花が横綱昇進の挨拶で使いましたが、自分の地位や名誉のため

めに努力することではなく、あくまで他人を救うために粉骨碎身することなのです。

▼不二家もお客さまの為に、不惜身命企業努力を続けていたら、危機は訪れなかったのかもしれない。
▼可惜身命（あたらしんみょう）という言葉があります。可惜とは「惜しむべき」の意味で、身体や命を大切にせよということなのです。
▼小納も五十の坂をこえ、今までのように無茶はできません。可惜身命、九島院を護っていきます。

●絶体絶命

昨年末、長年愛用してきたワープロが壊れました。原稿を印字しようとしたところ、まだらにしか印字されません。説明書にある富士通のセンターに連絡をとろうと電話番号を回すも繋がらず、ようやく連絡がとれたものの、印字ヘッドの磨耗とかで、「ワープロ機は、西暦2000年に製造中止になり、修理できない」とのことでした。

友人がパソコンに乗り換えていくなかで、頑固にワープロ一筋を通してきたので、今まで保存してきたお寺の事務書類をはじめ膨大なフロッピーデスクが使用不能となってしまったのです。以前使っていた旧式のワープロを取り出したところ、印字はできるが、フロッピーデスクドライバーが作動せず、絶望の淵に追いやられてしまいました。

新年早々、ワープロを捜し求め日本橋電機屋街を彷徨しましたが、ニノミヤ無線や上新電機など電機店は、俗に言うオタクの玩具店に変わっており、残存している電機店で尋ねても、「そんなありません」と冷たい返事。浦島太郎の心境でした。

ヨドバシカメラでワープロ変換ソフトと親指シフトという特殊なキーボードを取り寄せ、パソコンを使おうとしても、そう簡単には扱えず、画面を開いては閉じる毎夜。寺報『龍燈』の制作も風前の灯火頭を抱えてしまいました。

「ワープロが壊れたので、龍燈は出せません」と言ったらと愚妻はいいますが、住職の座を下りたとしても、寺報『龍燈』だけはライフワークとして続けるつもりなので、友人に助けを求めました。

先の龍燈の編集後記で書きましたが、『出处進退の現状考案』が、早速、目の前に突きつけられた新年早々でした。



「開山龍溪禪師の喜び、誰よりも本尊の喜びです！」

ご 案 内

山 門 会 ・ お 彼 岸 法 要
並 び に 大 亀 地 蔵 尊 開 眼 法 要

3 月 2 3 日 (金)
午 後 1 時 開 式

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません
ご回向お申し込み下さい。